今日の緑丘　today's Midorigaoka

伊達緑丘高校の一日を、お伝えします。

7月25日（金）　伊達緑丘高校も夏季休業に入ります

学校祭から約2週間。授業を中心とした通常日課に戻り、蒸し暑い日が続く中、生徒たちは集中して授業に取り組んでいます。夏季休業を迎えるまでのあいだ、本校では7月15日（火）から「個人面談週間」と位置づけ、学級担任が生徒一人ひとりと普段の学習や生活、進路のことなどについて面談をしていきました。1年生は入学からの約3か月を振り返り、2年生は進路実現に向けた夏休みの過ごし方を考える良い機会になったのではないかと思います。そして3年生は、いよいよ受験計画を確認していく最終段階に入っています。学校祭の余韻に浸っている時間はなく、何事も「待ったなし」で取り組まなくてはなりません。

25日（金）5校時、体育館にて「夏季休業前集会」を実施しました。はじめに、先に行われた高体連の支部大会・全道大会の表彰伝達が行われたあと、全国総文祭に出場する美術部の岡崎芽生さん（美術工芸部門）、インターハイに出場する陸上競技部の黒田七海さん（走り高跳び）、老久保望夢君（やり投げ）、西谷公輔君（円盤投）4名の「全国壮行会」が開かれました。吉田校長先生からの選手紹介と激励の言葉に続いて、全国大会に向かう選手たちから、「ひとつでも上を目指して頑張ってきたい」と決意が述べられました。とくに2年連続のインターハイとなる西谷君は、「昨年予選通過できなかった悔しい想いをしているので、今年こそは決勝まで進みたい」と大会に臨む熱意がひしひしと伝わってきたのが印象的でした。








また、壮行会後の「夏季休業前集会」では、校長先生よりこの3か月を振り返り、学習や部活動、さまざまな行事をとおして生徒のよさ、美しさに触れることができたことへの尊敬・感謝の言葉が伝えられました。このほか、始業式でも触れられた、①「命を大切にすること（人権・人格の尊重）」、②「伊達緑丘高校の財産の継承とさらなる発展（文武両道、安心安全、礼儀や挨拶」、③「挑戦なくして道は拓かれず（学習・進路・部活動での飛躍）」の3点について、お話がありました。

441名の生徒たちは、夏季休業に入ります。この間も、大多数の生徒たちが、講習や部活動のために日々汗を流します。心身のリフレッシュとともに、日頃できないさまざまなことに取り組み、有意義な夏休みを過ごしてほしいと思います。

健康・安全に留意し、また元気な姿で会いましょう。保護者の皆様、ご家庭でのご指導のほどよろしくお願いいたします。